**令和６年度１回まちづくり懇談会　議事録**

**「プレーパーク船橋」**

１．日　時：令和６年７月２４日（水）午後２時～３時

２．場　所：船橋市役所９階　第２応接室

３．議　題

　（１）遊び道具を保管する倉庫の設置について

　（２）プレーパーク開催時のみの火おこしの許可について

　（３）プレーパークを管轄する担当課の設置について

　（４）常設のプレーパークの検討について

４．議事録

○団体

　よろしくお願いします。

○市長

　よろしくお願いします。

○団体

　まずはこのたび、このような貴重な機会をいただきましたこと、本当に感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

○市長

　いえいえ。

○団体

　１時間の間で、こちらからのお話をさせていただきたいと思います。

　まずは簡単に自己紹介からさせていただきたいと思います。

　プレーパーク船橋代表の齋木と申します。よろしくお願いします。

○市長

　よろしくお願いします。

○団体

　副代表の石塚です。よろしくお願いします。

○市長

　よろしくお願いします。

○団体

　会計をしております吉岡です。よろしくお願いいたします。

○市長

　よろしくお願いします。

○団体

　松が丘で居場所づくりをしています、横山と申します。プレーパーク船橋ではサポーターをさせていただいています。よろしくお願いいたします。

○市長

　よろしくお願いします。

○団体

　プレーパーク船橋にいつも遊びに行っている小田と申します。よろしくお願いします。

○市長

　よろしくお願いします。

○団体

　次にお手元の資料により活動紹介をさせていただきたいと思います。

　市長とはいつも子育て応援メッセとか、あと夏のボランティア体験のほうでお伺いし、お目にかからせていただいています。

○市長

　ありがとうございます。

○団体

　あと、先日の市長のお話し会の中でも、プレーパークについて触れていただきまして、ありがとうございます。

○市長

　いえ、とんでもないです。

○団体

　私たち２０１８年の７年前より第２日曜日、今は第３日曜日に変わりましたが、第３日曜日に長津川親水公園を中心に、こういった遊び場の活動をしています。

　長期休みのこの夏休みとか、あと冬休みなんかには青少年課さんが管轄している大神保キャンプ場を使用させていただいて、火おこしだったり、ダイナミックな水遊びだったりというキャンプ場での遊び場も開催しています。

　７年前から始めたということでコロナ禍の期間もありましたが、その期間の中でも外遊びというのが大変重要視されていて、どんどん外遊びの必要性が高まってきたのではないかなと感じています。私たちのプレーパークを通して、人と自然とのつながりであったり、あとはコミュニケーション能力であったり、そのような事を育んでいけると考えて活動しています。

　プレーパークの理念としては、自分の責任で自由に遊ぶという言葉をモットーとして、禁止事項を極力減らした子どもたちのやってみたいという好奇心を大切にして、やりたいことに挑戦できるような遊び場となっています。「冒険遊び場」とも呼ばれています。

　プレーパーク船橋としては、今年度、船橋市と教育委員会さんにも支援していただいて、年間こういった活動をしています。

　国内外での普及というところで、１９４０年代にデンマークで始まり、最初に世田谷区で始まって、千葉県でも４７か所、今現在プレーパークの活動が行われています。こういった活動をサポートしているのが、ちばぼう、一般社団法人千葉県冒険遊び場ネットワークというところにサポートしていただいて、私たちもプレーパーク船橋も登録をしています。

　千葉県にこれだけ広がっているんですけど、船橋でも、松が丘で開催している、本日出席の横山さんもそうなんですが、今現在、こちらのよく見慣れたふなばし子育て応援誌『こそ・あど』にも掲載しているように、４団体、今現在プレーパークの活動があり、最近若松のほうでも始めたいというような若者たちが出てきてくれて、今現在５か所に増えようとしているところです。

　船橋でもこういった活動をしていますが、他市でも活動が盛んで、千葉市と四街道市は常設のプレーパークがあって、佐倉市ではプレーパークの運営を支援しますということで、市が委託事業としてやるということでどんどん進んでいるような状況でもあります。

　２番目の船橋市を取り巻く現状と地域の課題というところですが、いろいろな子どもたちの事業をたくさん行っていただいていて、私たちも、私の子どもなんかも三番瀬に行ったり、アンデルセン公園に行ったり、いろいろな遊ぶ施設がたくさんあるんですけれども、公園、どんどん都市化が進んできて、うちなんかも住宅が多いエリアなので、身近に子どもたちの足で行ける距離には小さな公園はあるんですけど、なかなかダイナミックにボール遊びをしたりとか、何でも自由にできるよといったような公園がちょっと少ないかなと思っていて、外遊びの機会が減っているという現状があるように感じられています。

　というところでプレーパークを私たちはやって、自由な遊び場として続けているんですけれども、簡単にちょっとプレーパーク、こんな意義がありますよというのを石塚から説明させていただきたいと思います。

○団体

　プレーパークの意義ですけれども、１つ目として自由な遊びを通して子どもたちの自主性、自発性、自己肯定感を育てますとあります。プレーパークには決まったことがないので、私の子どもは今中３なんですけど、小４のときによく利用していて、普通だと木に登っていると「ちょっと危ないから下りな」となるんですけども、そういうところ、禁止事項をなるべく少なくしているので、プレーパークでは木登りをして、そこだとみんなお母さんたちが褒めてくれるので、「すごい、あんなところまで登れたの」ってなると、やっぱり自己肯定感、私できるんだというところにつながりますし、吉岡さんの子もすごい字とか計算が上手で、何か自由に使って遊んでいいよというところが分からないねというのに気づいてくれて、それで看板とか作るのが上手で、作ってくれるとすごい褒めたり分かりやすいねってなると、自己肯定感がついてきてすごくいいなと感じています。

　次に、子ども同士の交流、斜め関係の大人との交流を通して子どもたちのコミュニケーション能力、社会性を養いますというところで、私たち受付もやっているんですけど、私たちだけじゃなくて子ども、私たちの子どももやってくれると、来るときに決まった人だけが来るのではなくて、毎回新しい人も来てくれるので、それで新しい人にも触れ合いながら、地域の大人との関わりの中で多様な価値観に触れることができているなというところがあります。

　あと、様々な遊びを経験して物の扱い方を覚えていく中で危機回避能力を育てますというのも、一応木工とか出しているんですけれども、のこぎりとか金づちとかをなかなか使う機会がない中で、のこぎりを押すのか引くのかというところから、足はどう置いたらいいのかというところも、ちょっとけがするときもたまにはあるんですけれども、ちょっと小さいけがをやりながら、重大な危険を回避する力を育てています。

　また、自然の中にあるものを使ったりするので、ちょうど先週はこの長津川公園に小山があるんですけど、小山のところにブルーシートを敷いて、上から水を流してすごい暑い中でもスライダーで、水のスライダーで遊んだりしてプールに行かなくても涼みというところを感じられていいなというところの遊びとかを経験しています。

　その中でも、やっぱりスライダーだと遊びだと危険なところもあるんですけど、みんなで見守れる遊び場というところで、子育て中の保護者、自分の我が子だけではなくて、我が子だけで１対１になっちゃうとやっぱりちょっと苦しいところも出てくると思うんですけど、プレーパークに来て、ちょっとほかのお母さんにも見てもらって、でも自分はちょっとほっとしてみたいな、そういうところも見いだしていけたらいいなと思っています。

　あと、地域の中で緩やかなつながりをつくりますというのは、プレーパークは子どもたちの遊び場だけども、今言ったように見守る大人たちにとっても居心地のいいところを目指していて、地域の中でつながりをもっと広げていけたらいいなと思っています。

　プレーパークの開催ですけども、１年を通してやっていて、２０１８年から始めて、２０２１年のところで１,０００人を超え始めるようになってきまして、今年は７月の段階で１０回やっていて延べ２７７名というところで、徐々に増えてきているかなと思っています。

　その２０１８年から続けてきた中で、公園やキャンプ場での遊び場以外にも、その他のほかの団体と交流する機会もたくさんあって、船橋パパ会であったり、ワーキングマザーの会さんとクリスマス会をやっていたり、あとコロナ禍で外に行く機会がなかったときに、オンラインがすごい主流になってきたと思うんですけど、そんな中でオンラインの講座を企画してみたりというようなことも開催させていただいていました。

　あと、先ほどもお話しした子育て応援メッセです。いつも参加させていただいていて、遊び場のブースとして出展しているんですけれども、昨年は川崎のプレーパーク、居場所を舞台にした、「ゆめパのじかん」という上映会をさせていただいて、いろいろな企業の方にも支援していただいて、たくさんの方に見ていただけたのかなと思っています。

　あとは、フードバンクふなばしとも連携して、フードドライブを実施したりしています。

　そのほかに市で行っている事業にも参加させていただいていて、今年も学生さんたちたくさん来ていただけることになって、夏のボランティア体験だったり、市民活動フェアにも参加させていただいています。ちょうど今週の土曜日、７月２７日に大神保のキャンプ場でプレーパーク開催させてもらうんですけど、そこの青少年キャンプ場でも毎年開催させていただいていて、昨年度からは、青少年課さんが主催でやっていただいています。

　最近では、令和６年度からはふなばし健康ポイントにも参加させてもらっていて、ぜひ子どもだけではなくて高齢の方たちにも来ていただいて、子どもたちと一緒に遊んでいただけたらなと思って参加しています。

　続いて民間企業との連携というところで、企業さんにもたくさん支援していただいていて、パルシステム千葉であったり、ＧＯＤＡＩ船橋というテニススクールの方であったり、塚田にある音楽シェアスペースのＳｏｌａｎａさんというところでもワークショップとかお祭りを開催させていただいたり、あとは、スズキオート京葉さんは「ゆめパのじかん」の支援もしていただいたんですけど、スズキオート京葉さんだったり、あとは市場カフェ、Ｍａｍａｃｈｉといった船橋市で大変長く続けていらっしゃる広報の方々とも一緒に遊び場を企画したりしています。

　あと、私たちの登録している、先ほど言った、「ちばぼう」でもプレーワーカー研修というのを行っていて、その研修の中で子どもの発達といった分野で講師としても話させていただいています。

　その他、地域との連携というところで、先週、行田公園の行田まつりにイベント出展させてもらったんですけど、そこでも自由な遊び場が広がって、どうしてもお祭りって並ぶブースがたくさんあるんですけど、そんな中で自由に遊べるコーナーがあるといいねなんて言ってくれる声もたくさんありました。

　あとは小学校、私たちの子どももまだ小学生なんですけど、小学校のお祭りなんかでも遊び場を出展して、すごくにぎやかに子どもたち遊んでいる様子がありました。

　広報紙の掲載、先ほども、ずっと私たちの立ち上げのときから『こそ・あど』をやっている丸林さんには大変お世話になっていて、『こそ・あど』には毎回掲載していただいていたり、あとＭａｍａｃｈｉさんだったり、こういった形でちいき新聞、私たちの団体もそうですし、あと横山さんのほうの団体もそうですし、広報紙にも載せていただいているというところです。

　あと、ここに記載はないんですけど、これまでの活動にどこからお金をもらっているのかというところで、もちろん市の市民協働課が行っている市の公募型の支援事業にも応募させていただいてコロナ禍でいただいていましたし、あとは社会福祉協議会、県の社会福祉協議会だったり、あとは先ほども言ったパルシステム、あとコープみらいとか、あと青少年課さんにも支援していただいています。あとは、イオンの黄色いレシートキャンペーンにも応募していて、そこからも。そこで入れていただいたお金でイオンでお買物させていただいて、こういった遊び道具を購入させていただいています。

　こうした形で７年続けてきたんですけれども、これまで続けてきて見えてきた課題、私たちはボランティアでやっているので、ちょっとこれからこうしていきたいという課題もありますので、これから、このまちづくり懇談会の提案書に沿って提案させていただきたいと思います。

　紹介だけで長くなってしまいましたが、これから本題に入らせてもらいたいと思います。

　こうした形でプレーパーク船橋を続けてきて、今後も持続可能な形で地道に活動を続けていきたいんですけれども、いろいろな遊びに子どもたちに自由に挑戦してもらうのにすごく道具がたくさんあるんです。こちらちょっと資料を見ていただけたらなと思うんですけれど。

　これ私の自宅の倉庫なんですけど、もう納まり切らないぐらいぱんぱんに積み込んで入っていて、外にもベランダにも出ていて、これ、そんなに増やさず少ない量でやればいいんじゃないのというのも、もしかしたら思うかもしれないですけど、やっぱり自由ないろいろな体験を子どもたちに挑戦してもらいたいというのもあるので全部使っているので、今、私の自宅に保管して、運ぶときも自分の車に乗せて積み込んで長津川だったりキャンプ場に行くというような形でやっているんですけど、みんなが使う遊び道具なので、できればその長津川のふだん行っている場所で置けるといいなというところが、第一の最有力提案、一番の懸念事項ですというところなんですけど、いかがでしょうか。

○市長

　公園に何か小さな倉庫みたいなのを置いているのは、地域の自主防災組織とかで置いているケースはあるんですけれど。

○団体

　ええ、そうですね。

○市長

　公園にそういうのを置きたいという要望は、結構いろいろあるんです。ただ、これは所管のほうといろいろ協議して、プレーパークの活動そのものはみんな理解しているので、これちょっと役所のほうで、役所の担当課、プレーパークの窓口になる課が、後でちょっと出てきます。

○団体

　はい。

○市長

　そこで役所の何か事業の一つとしてプレーパークとコラボしていますよというのがないと、みんないろいろなところが来たときに理由が、だから線引きができないので、それができるかどうか。

　それで、だからあとは、さっきの活動費の話が出てきちゃうんだけど、その倉庫を誰が買うかというのがあるんですけど。

○団体

　そうですね、管理。

○市長

　それを含めて協議をできる場をまずやって意見交換しながら、どうしたら一番対外的にも説明がつく形でできるかというのを、それは検討したいなと思っています。

○団体

　ありがとうございます。

○市長

　公園の担当もちょっとその辺は、そこら辺の線引きをきちっとできれば、協力はしたいというような話はしていましたので。

○団体

　ありがとうございます。

○市長

　すごい量ですね、これ。

○団体

　そうなんです。

○市長

　これ車に積み込むだけで大変じゃないですか。

○団体

　そうです。車がもうぼろぼろで。二、三往復して。

○市長

　そうですか。

○団体

　はい。長津川のあの坂を下りていって、また登って片づけるのもまあまあ結構きつい作業で。

○市長

　分かりました。

　ちょっとそんなことで今、役所の中では話をしているので、担当を明確にしながらやり取りさせてもらえればと。

○団体

　ありがとうございます。

　では、検討していただいて、よろしくお願いいたします。

　２番目のプレーパーク開催時のみの火おこしについて、なかなか難しいかなと思うんですけど、提案させていただきたいなと思います。

　火おこしについて、ただ単に私たち火遊びがしたいとかということだけではなくて、子どもたちが火を扱うことによって身近なところで防災にもつながるかなと考えています。自然災害なども最近多いので、ガスや電気が止まってきたときのライフラインとして子どもたちが知っているというところって大分大きいと思うんです。

　あとはキャンプ場でできるかな。できるって言われたらそれまでなんですけど、身近な場所で、どうしても、あと私たちの地域からだとキャンプ場は、ちょっと遠くて、子どもの足だけではなかなか行けないです。そこで子どもたちが自ら行く、行けるような身近な場所で、より気軽に火を親しむチャンスが得られるといいなと思って考えています。

　一番最初に、松戸市長に来ていただいたのが２月だったと思うんです。最初２０１９年の２月だったと思うんですけど、すごい寒い時で。

○市長

　そうですね。

○団体

　でもそれでもやっぱり子どもたち外で遊びますし、季節問わず自然の中で遊ぶ活動なので、夏、今のこの暑い夏でも日陰で涼んだり水遊びをしながらもずっと公園で過ごしているんですけど、冬場はやっぱり火があってそれを囲って、コミュニケーションも取れるというようなことで、火の扱いはちょっとできるようになるといいなということを考えていますが、いかがでしょうか。

○市長

　これはね。公園で火を使うって結構ハードルが高いんです。というのは、バーベキューをやりたいとか。

○団体

　そうですね。

○市長

　いろいろな希望があって、それは安全管理ができないから。当然、不特定多数の人が来るエリアなので。これ可能性があるとすると、プレーパークの何か自分たちが、子どもたちいろいろなさっき遊び方とかやっていたけど、その中のプログラムの一つとして限られた形でやっていくというものを提案してもらって、こういった形だったらどうでしょうかというところの中で検討するしかないかなという。だから、ただ普通に公園で火を使っていいですよとか、悪いですよという、そこの仕切りの中だけではなかなか整理ができなくて。今年の１０月ぐらいに何か進めていきたいなというのがあったので、それがどういった形態で火を使う機会にしたいのかというのをちょっと教えてもらって、そのやり方に対して許可できるかどうかというほうが現実的で、青少年キャンプ場なんかだとキャンプファイアとかって、あれは消防に届出を出して、ほかのプレーパークのところでも消防の許可をもらったりしているじゃないですか。

○団体

　そうですね。

○市長

　だから、今回のまず第１弾としてやるとすると、そのやり方を具体的に提示してもらって、その中で公園の使用として許容範囲の中に収められるかどうかというのを協議させてもらうというところが、まずスタートになるかなというか。

○団体

　それは長津川公園での開催で。

○市長

　そうですね。

○団体

　はい。

○市長

　だから、もういきなり完全駄目よということではなくて、公園担当が安全とかほかの人たちへの説明の中で、仕切りができるかどうかというところで。

○団体

　先ほどの倉庫の件もそうですね。

○市長

　そうですね。その辺でやり取りをさせてもらえればなと思います。

○団体

　ありがとうございます。ちょっと希望が見えました。

○市長

　結構、火は本当危ないので、難しいんです。

○団体

　そうですね、ええ。

○市長

　火を見ただけで市民の人たちの反応って結構厳しいものがあって。

○団体

　そうですね、煙も起きますし。

○市長

　煙とか。その辺がだからちょっと難しいんだけど。取りあえずどんな形でやりたいのかというのを教えてもらって、そこでちょっとブラッシュアップできるかどうかという感じで。

○団体

　では今年度の１０月ぐらいをめどにしたもので、具体的な内容を提示させてもらって進めさせていただきます。

○市長

　はい。

○団体

　ありがとうございます。

　続いて、３番目のプレーパークを管轄する担当課の設置についてなんですけれども、今現在やり取りさせていただいている団体として、地域子育て支援課、公園緑地課、市民協働課、青少年課と主にやり取りを密にさせていただいています。時々道路を使う、道路の鍵を開けたいですというときに道路管理課の方にお願いしに行ったりということもありました。公園を使うのに公園緑地課に申請に行ったり、キャンプ場の開催のときにキャンプ場の青少年課に行ったり、登録しているのが市民協働課のボランティアで登録させてもらっているので協働課の方ともやり取りさせていただいている中で、いろいろな課の方がすごく支援していただいてバックアップしてくれているのも本当にありがたく感謝しています。ただ、正直スタッフが少ないのでやり取りするのに人員的な問題もあって、ちょっとキャパオーバーな部分もあるので、ひとつ窓口があるとやり取りがしやすいかなというところで、担当課を決めていただけたらなというお話を提案させていただいています。

　先日、議会が行われていたと思うんですけど、池沢議員さんより担当窓口、地域子育て支援課で進めていくのかなということでお話いただいているんですけど、そのような形でしょうか。

○市長

　これ、まずプレーパークの人たちの訴え、第一義的な何か相談があったときに受ける場所としては、地域子育て支援課にしようかという話で今進めています。ただ、いろいろな手続あるじゃないですか。

○団体

　そうですね。

○市長

　例えば公園とか道路とか。これを地域子育て支援課が代わりにやりますというのはちょっと厳しい。だから、こういったことをやりたいんだけど、役所の中で当然つなぎはやるんだけれども、実際の申請とかというのは、直接やってもらったほうが間違いないということになるので。

　ただ、さっき言った火おこしの協議とか、公園の荷物置場の話とか、地域子育て支援課がまずは担当課と協議できるような入り口のところははっきりさせていきたいと思っているので。地域子育て支援課で今、市のほうは考えていますので。後で正式に担当から齋木さんに話行くと思いますけど。一応そんな形で。

○団体

　ありがとうございます。よろしくお願いします。

　プレーパーク、今４団体で、次５団体に増えようとしているところで、私たちのプレーパーク船橋だけではなくて、船橋市内の遊び場全体としてバックアップしていただけたらなという考えで、人員的なことだったり、あと付随して保険のことだったりというのもバックアップしてもらえると大変ありがたいなというところで、横山さんからもお願いします。

○団体

　私は松が丘の自宅を利用して自宅の一角で駄菓子屋という形で居場所づくりをしていまして、プラスで月に２回ほどすぐ近くにある緑地公園でプレーパークを開催しています。そのほかに個人的になんですけど、児童ホームだったりとか、公民館とか、社協さんのイベントとかでパフォーマーセラピストとして講師で呼んでいただいているんですけれども。もともと児童ホームがすごく大好きで、本当に行くのが好きで居場所だったんですね、自分にとっても子どもたちにとっても。自分もそういう居場所をつくりたいなという思いがあったので、始めたきっかけも児童ホームなんですけれども。

　児童ホーム、すごく大好きな場所なんですが、例えば月曜日やっていなかったり、例えば障害の方が行きづらかったりとか、行きづらさを感じている方が多いなと感じたんです。どんな人でも行けるような場所があれば、もう少し子どもたちの居場所が幾つあってもいいんじゃないかなという思いで、今は週３回しかできてないんですけれども、実際に今、施設の子たちが来て駄菓子を買って、プレーパークで遊んで帰ってくれていたりとか。

　あと私がちょっと考えているのは、子どもだけでなくて障害者、そして高齢者の方との関わり方も子どもたちに教えてあげたいという思いで活動しています。高齢者の方にも参加できるように、今度、オレンジカフェを開催する予定です。

○市長

　そうなんですか。

○団体

　はい。９月から開催を、もう包括課のほうに提出しましたので、９月から開催を予定していまして、また先日２１日にはこども食堂も開催しました。スタートさせました。こども食堂も、やっぱりプレーパークに遊びに来る子たちがお弁当を持ってこなかったりとか、駄菓子でちょっとつないだり、おうちに帰ってまたおいでと言っても、おうちに誰もいなかったりとか、お金だけ持たされて何か買ってこいって言われているのかなというお子さんもいて、いろいろな事情を抱えた家庭があるなと。この１年続けてきているんですけれども、そこでおにぎりだけでも用意したいなという思いで、こども食堂ネットワークに加入させていただいて、今月からこども食堂も開催、プレーパークと同時に開催をしました。

　そういった中で、いろいろな方と、年齢や立場を問わずいろいろな方と関わることで、いろいろな方が楽しく時間を過ごせるんじゃないかなという思いで活動しているんですけども、活動をしていく中で、どうしてもボランティアで活動しているので、なかなか思い切りできない部分もできてきてしまって、もっと子どもたちにとっては毎日やってほしいという声も。もう本当に何で毎日やってくれないのって言われるんですけど、なかなかちょっとお金の問題もあったりして続けられないというのが現状でして、そういったところを少し、できれば市からも支援をいただけたら、活動ももっと広げられるかなという思いでやっています。

○市長

　そうですか。横山さんはいろいろなところで私も会う。

○団体

　そうです、はい。

○市長

　本当に頑張ってもらっていて。あれですか。支援ってどのぐらいの形が一番助かるかなと。何かあったらというの、ありますか？

○団体

　今、自宅というのもあって、あまり公開はしてないんですけれども、松が丘の近所の子たちという形でやっているんですけど、例えばトイレがない。公園にもトイレがなくて、トイレを貸してほしいという形で家のトイレを子どもたちには利用してもらったり、水場が、手を洗いたいとか、結局、光熱費も結構かかりますし、今日も実は駄菓子屋の日なんですけれども、ボランティアの方たちが何人か来てくれていて、ボランティアに今お店をお願いしています。

　お金を持ってこなくても遊びに来ていいよというスタイルでやっているので、本当に売上げは全然望んでいなくて、ただそういった形でボランティアの方にも謝礼を払えるような形で運営していきたいなという思いがあって。今、どうしても持ち出しばかりで、そうですね。

○市長

　これ、あれかな。多分、今この場ではちょっとなかなか具体的にあれなので、地域子育て支援課が窓口になったときに、幾つか今日の要望だけではなくて細かなことでほかにもいろいろあると思うので、その辺を、今、横山さんがおっしゃっていたマネジメントの部分のサポートがどういうのがいいのか。佐倉はやっていると言っていました。

○団体

　そうですね。佐倉が進んで、やっていて。

○市長

　だから、それがどういった形がちょっと現実的にこの辺があったら助かるとか。これは今後具体的にもうそのときは遠慮しないで、実態をざっくばらんに言っていただいて、それでここら辺が困っているとか、ここら辺が実はサポートしてもらえると、何かもっといいんだろうかということを言ってもらって、当然できないこともたくさんあるんですけど、でもそれを知らないと次につながっていかないので、そんな形でやり取りをさせてもらえるといいかなと思います。

○団体

　はい。

○市長

　ちょっと今、今日の段階ではそこまでしか答えられないけど、取りあえずは、これ、こども食堂もフードバンクも最初、窓口がいろいろなところが関わっていて、お互いに様子見というか、一生懸命やっているのだけど、リーダーになるところが最初決まってなかったのであれだったんですけど、今はそんなことなくなったので、それと同じだと思うから、ちょっとそんな感じで。

○団体

　ありがとうございます。

○団体

　よろしくお願いします。

　今の横山さんの話にも通ずるところなんですけど、やはり運営面のサポート、私たちはなるべく子どもたちと関わるほうに重きを置きたくて、現場のほうに重きを置きたいので枠組み、大枠のほうを市に支援していただけると、先ほどもおっしゃったように助成金をいろいろなところに申請して、物の道具だったり、運営のかかる交通費だったり、プレーワーカーさんに来ていただく謝礼金だったりというので、自分たちで助成金の申請書を書いてというのを細かく毎年やっているので、そういったところが、事務的なところも結構負担になっている部分ではあるので、その大枠をちょっと市のほうでつくって運営面をサポートしていただけると、私たち本当に子どもたちと関わることに専念してやっていけるのかなというところで考えているんですけど、来年度、恐らくこども家庭庁が発信、推進している、こども居場所づくり支援事業がモデル事業じゃなくて採択されるんですか。

○市長

　どうなんだろう。その後ちょっと確認してないから、あれなんです。

○団体

　それも池沢議員さんから、市議会であったのかもしれないんですけど、そこに、その計画の中に、こども食堂と並んでプレーパークも計画の中に一つ、具体的な内容はこちらからまた提案させていただくことになるのかもしれないですけど、プレーパークをちょっと計画の中に入れていただけるといいかなと。

○市長

　なるほど。ちょっとそれは担当に話して。今プレーパークのこの活動している人って、何人ぐらいでやっているの。

○団体

　私と、プレーパーク船橋ですか。

○市長

　はい。

○団体

　本当の運営メンバーはここの３人だけでやっていて。

○市長

　そうなの。

○団体

　南山さんもいたんですけど、南山さんは薬園台のほうで専念してやっているので、運営のスタッフとしては３人で、サポーターで横山さんと二人、参加者の小田さんだったりという形です。

○市長

　横山さんは松が丘のほうの活動は。やっぱりサポートしてくれる仲間がいる。

○団体

　そうですね。一応市民団体として登録していて、わくわくパークＦＵＮ　ＴＩＭＥという名前で登録しているんですけど、一応ボランティアさんが６人いるんですけど、実際に現場でやっているのって、週３は私と、あと隣の方がちょこちょこ顔出してくれて手伝ってはくれるので、ほぼ１人、２人、３人ぐらいでやっています。

○市長

　そうすると、運営当日は結構大変ですね。

○団体

　そうですね。

○団体

　当日はそう、楽しんでやっているんですけど、それ以外の事務的な作業が割と申請書だったりお金のことだったり会計だったり。これまでの資料づくりだったり。あと保険です、保険も。保険のことはちょっとまた改めて話したいんですけど。

○市長

　運営当日は、３人以外。

○団体

　当日は、サポーターの方も含めて常時５人、３人だったりするときもあるけど、あとは、私たちスタッフとはいえ、参加する子どもたちとか参加する保護者の方と一緒につくり上げていくというようなスタンスでやっているので、そこは逆に言うと、当日はもうみんなで見守り合っているという感じなので。

○市長

　そうか。

○団体

　ええ、そんな感じです。

○市長

　前、見させてもらったとき、何かお父さんなんだかスタッフなんだかよく分からなくて。

○団体

　ええ、それぐらいでいいんです。

○市長

　一緒に。

○団体

　そう、スタッフか、お父さんなんだか分からないぐらいで全然。

○市長

　なるほど。

○団体

　やっぱり来てくれるパパなんかも一緒に遊んでくれるので、子どもたちと。そういった形で、当日は逆に言うと、負担を感じないかな、当日のほうが。

○市長

　子どもを連れていったお父さんも一緒に遊ぶから、楽しいんだよね。

○団体

　そうですね。そうなんですよね。そうして、やっぱり子どもだけじゃなくて大人も一緒に楽しく、子どもたちと一緒に楽しんでほしいなという思いもあるので。

○市長

　そうか、分かりました。

○団体

　なので、そうですね、窓口つくっていただけたらと思っているのと、先ほどもそこにその流れで常設のプレーパークの検討についてというところなんですけど、去年、子育て応援メッセで、川崎のプレーパークを舞台にした「ゆめパの時間」を上映したんですけど、川崎も常設で行っている場所で、そこにはプレーパークもあるし、もちろんこども食堂もあって、あとは学校に行かない子が過ごすような場所もあったり、発達の凸凹がある子が過ごすようなスペースがあったり、あとは本当小さい赤ちゃん連れの親子が過ごすスペースとかもあったり、いろいろな子どもたち、いろいろな人が交ざり合って過ごせるような一つの場所が舞台となっていて、そういった形で子育て応援メッセもいろいろな団体が集まり合って行った事業なので、そこで「ゆめパの時間」を開催させてもらったことには大変意義があって、一つ一つの団体だけじゃなくて、つながった一つの場所があるといいよなというのはすごく理想としてあって、それが理想であるのと、あと常設というところで、やっぱ単発開催だと遊びが途切れてしまって、１回片づけなきゃいけないんですよ。穴を掘ったのも１回塞がなきゃいけないし、途切れてしまうのではなくて、千葉市だったり四街道のプレーパークに行ってみると、穴もどんどん掘ってどんどん掘って秘密基地になっていたり、木の上に秘密基地をつくっていて、じゃまた次、あしたやろうみたいな感じで、やっぱり遊びって継続性とか連続性があると、どんどん子どもたちって発想が湧き出てくるようなところもあるので、一つ常設としてあるといいなというのは考えていて。

　それが今やっている長津川緑地だと、今、昔から一般の公園として利用している方とかも多いと思うので、またどこになるかは、一応その常設のプレーパークの希望という、希望の場所は特にないんですけれども、一つあるといいなというのは考えています。

○市長

　プレーパーク、今、船橋が人口が急激に増えた町で、公園面積は圧倒的に足らないんですね。探しているんだけど、なかなか本当に小規模なところは見つかるんだけれども、一定規模の面積が空いている場所がなくて、やっぱり一般使用みたいな公園のニーズもまだ物すごく高いんです。そこで、だから常設のプレーパークみたいな形でやるのは、ちょっとだから担当のほうも一生懸命探していかないと、場所がなかなか見つけ切れないという問題はあるんですね。

　ただ、今後、今、子どもたちの居場所、さっきのこども家庭庁の話じゃないけど、いろいろな環境づくりは必要なので、これは市の公園行政の宿題でちょっと時間をいただきたいなという感じなんですけど。

　あとは、常設にしたときの運営母体、いまプレーパークの皆さんがやってるような形だけでは少し難しくなってしまって、いろいろな事故とか責任問題とかいろいろなことが出てくるので、その辺のところはまたどういう形態でやって、さっき世田谷とかも完全にその専門の人たちがいるじゃないですか。

　だからそれがどういった形でやっていくのがいいのかというのは、またいろいろ意見交換させてもらうような形になるかなと思います。

○団体

　はい。アンデルセン公園とか三番瀬ってもともとは民間の事業が市の事業になっている、あれですか。

○市長

　アンデルセン公園は完全に市が、あそこ本当は一番最初はわんぱく王国、その前の計画は、農業の公園にしようと思ったんです。それが子どもたちのわんぱく王国というやつにして、それで姉妹都市になった関係で、アンデルセンのというので。海浜公園のところはもう完全にもともと海辺の公園としてやっていて、東日本のときに流水プールが壊れてしまったので、それでもう完全に造り直したという。もともと市の土地でやっていた感じです。

○団体

　で、今は民間。

○市長

　運営はね、民間です。

○団体

　市があれですよね、ちょっとサポートというか。運営面でサポートしている感じ。

○市長

　指定管理制度といって、管理運営を民間と、責任とかは市のほうで持っているんです。だから、運営の仕事そのものはお願いをしているみたいな。

○団体

　ええ、何かそういった形で、市の事業の一部としてプレーパークも成り立っていけると。

○市長

　そうですね。

○団体

　いいかなと。

○市長

　あとは、プレーパークのような形態のものを請け負ってくれる人たちって結構いるんですか。

○団体

　請け負ってくれる企業ということですか。

○市長

　いや、企業というか民間団体でもいいんですけど。ＮＰＯでもいいんだけど。

○団体

　民間団体としては、いや私たちだけかな。

○市長

　だから、その辺ももしもやるとなると、実際の運営を多分、市の人間がやるよりは絶対に経験者の人たちが組織しているところのほうがノウハウもあるし、指定管理のやり方のほうが自由の幅が違うんですよ。市の職員がやると公務員なので全てが決まりの中で動かざるを得ないので。そんな感じだと。

○団体

　分かりました。

○市長

　その辺は、今すぐいい答えはできないです。でも常設は担当のほうも意識はしているので、だからあとは場所とか、その辺の順位づけみたいなのがあるので、また、それを少し勉強してやってみます。

○団体

　ありがとうございます。ちょっと違うんですけど、今、保育ママさんとかあるじゃないですか。家庭的保育さんて委託という形で市からの委託という形で運営されているというふうに。

○市長

　ところもあります。

○団体

　そういった形を、もし常設じゃなくとも取られたらいいなって思ったり。

○団体

　今の時点で、今の段階でもそういった形で。

○市長

　なるほど。だから、これ、市の正式な委託になってくると、さっき言ったように安全管理の問題がすごくシビアになってくるんです。

○団体

　そうか。

○市長

　そうすると、資格を持っているのかとか、こういう資格の安全性が担保されているところだから、当然お金を、税金を投入してという形になっていて、活動へのサポートと委託って全く意味が違ってくるので。だから、どっちがいいかという。

○団体

　制限があるとちょっとな。

○市長

　だから、やっぱり平常時はいいんですよ、自由に。何かあったときに必ず言うのが、これは安全管理はどうしていたんだとか、市のほうでチェックしていたのかって、必ずそれでこれ裁判になっていくと、圧倒的にそこら辺が、いや、自由にやってもらったほうがいいんですというのは理由にならないので。だからどうしても何か役所がやると堅くなってしまう。

　でも、すごくそこら辺は何か１回実証されていくと社会的に許容範囲が広がっていくので、一歩一歩やっていくしかない。

○団体

　まずは支援という形で。

○市長

　のほうがいいかもしれない。

○団体

　そうですね。

○市長

　これはまた担当と話をしてもらって、支援もそれなりの何か理由づけとか、子どもたちに対しての効果だとか、当然効果はあるんだけど、地道に、地味にやっている、ほかのことをやっている人たちもいるので。そうすると、それはうちのほうも認めてよと言われたときに、明確に、いやこれはこれだから、市のほうが支援しているんですよみたいなものが必要になっちゃうんだけど、ただ、これは一歩一歩実績を積み重ねていくしかないので。

○団体

　積み重ねて。

○市長

　でもこれ、皆さんはプレーパーク最初に自分たちもやってみようと思ったきっかけって、やっぱり自分のお子さんですか。

○団体

　私はそうですね。自分の子どもが、ここに船橋に来る前に徳島で自主保育をしていて、３歳ぐらいまでのときに。それでやっぱり外遊びいいなって、自分もすごい過ごしやすいなって思っていたのがきっかけで、こっちに来てもやっぱり伸び伸びと過ごせるような場所があるといいなということで、市川のプレーパークに行ったら、何だ、ここはというような驚きとひらめきがあって、船橋でもやろうという形で、ちばぼうに相談させてもらって立ち上げた。そのときに行ったスタッフと一緒に立ち上げたという経緯が。

○市長

　本当に船橋も今、人口すごく多くて。

○団体

　そうですよね。

○市長

　行政だけだと、もうやり切れない部分がたくさんあるので、いろいろな人に関わってもらって、役所とコミュニケーションを取りながらやってもらうのが一番いい形かなって思います。

　さっき、高齢者の皆さんの話も出ましたが、高齢者の人たちもそうだし、日中支援というか、学校へ行けない子たちとか、やっぱりプレーパークって世田谷なんかもこの前、結構前だけどテレビでやっていたときがあって、その昔やっていたときのプレーパークの番組って、子どもたちが何か昔みたく自由に遊べるというのがメインだったんだけど、この前何のときかな、見たときは日中支援の子たちの居場所づくりのところで、その子の成長みたいなのを追っかけていたんですけど、そういった機能も持っているので。学校は学校でやっているけど、学校は嫌だという、まだまだちょっとそっちのほうまで入り切れないという子たちのためにもいいのかもなと思いました。

○団体

　何か居場所は一つだけじゃなくてもいいなという考えもあって、船橋は児童ホームがたくさんあるじゃないですか。平日やっていて土日もやっていて、うちの子も今日行ったんですけど、児童ホームに。そういった形ですごい活用させてもらっているんですけど、もちろん児童ホームもいいし、外のこういった活動もいいよねという、いろいろなところで選択肢が多いとすごくいいなと感じています。

○市長

　プレーパークって来る子どもたちの年齢層って、一番上の子ってどのぐらいまでなんですか。

○団体

　団体によって多分様々だと思うんですけど、うちはやっぱり『こそ・あど』に掲載していただいているのもあるんですけど、親子連れの小学校３年生ぐらいまでの子が多いのかなというイメージなんですけど、横山さんのところなんかは、中学生。

○団体

　うちは結構中学生も来ます。

○市長

　あ、そう。

○団体

　はい。というのは、何か今、学校に行きにくい子の話も出ましたけど、やっぱり学校、先生とかには言えないこととか、話せないこととか、地域柄もあるのかもしれないんですけど、うちのところはちょっとそういった家庭に事情を持っている子たちもちょっと多いかなというところがあって、結構、中学生も来ますね。

○市長

　児童ホームでも中高生が何人か来ていて。ただ、今の児童ホームは低学年、小学生を中心にして考えている施設なので、その中で中高生をどうやって居場所として。ただいられる場所じゃなくて、その子たちにとっていい場所って何かという。

○団体

　そうですね、安心できる空間にね。

○市長

　それが何かちょっと結構これからは難しいかな。

○団体

　これからやっぱり夏のボランティア体験も始まって中高生の子たちも来てもらうんですけど、そういう子たちにとっても何か過ごしやすい場所になっていったらいいなとは思って。

○市長

　今度まだ機会があったら横山さんなんかも、何か中学生の最近の中学生はこんな悩みが多いんですよって。

○団体

　結構あります。結構話してくれるんですよ。いつも来ている子たちと来なかった子に、今日、あの子はとかいうと、けんかしたとかって言ったりとか。何かもう絶対遊ばないとか言うんですけど、また次一緒に来てくれたりとか。

　あと、結構やっぱり言葉が悪くなっちゃったりとか。思春期だったりしてすごく言葉が悪くて私に対しても結構ひどい口で言うんですよ。絶対つまらないから次のプレーパーク絶対行かないとか言うくせに、朝９時に来るとか。早いじゃんみたいな。手伝いに来たみたいなことを言ったりとかというのは、やっぱりその子たちにとって居場所として成り立ってくれているのかなというのは実感していて。つまらないって言いながらも、最後には「横山さんともっと話したかった」って言ってくれたりとか。何かまた来るねって言ってくれて、ちょっと甘えたいのかなというのも感じるし。何かそういった、ふらっと来て、宿題とかいっぱい持ってくるんです。今日は絶対ここで宿題やるからといって、どっさり教科書持ってくるんですけど、結局、駄菓子だけ食べて帰っていくみたいな。宿題はとか言って、何かもういい、帰るみたいな。多分やっぱり居場所を求めているのかなというのは感じます。

○団体

　中高生ぐらいになってくると遊びに来るというよりか、やっぱり話をしに来る。

○団体

　ここに人がいるから来るというところがあると思うんですけど、プレーパーク長津川にもたまに来る中学生がいたんですけど、また、最近ふらっと高校生になって現れて、ここはこうしたほうがいいよという提案をして去っていくんですけど、遊ばずに去っていくんですけど、会いに来てくれたりとかという感じで。やっぱり私たち、毎日開いているわけじゃないので、やっぱり中高生の子たちにとっては毎日開いてて、ちょっと行きたいときに行くという行ける環境というのはすごく大事なんじゃないかなと感じています。

○市長

　そうか。

○団体

　結構小学生の子たちも来るので、何も言わなくても手伝ってくれたり中学生はしてくれたりして、この間は団体の旗を作りたくて、私が作っていたんですよ。何か暇そうだからやってよと言ったら、「えー」とか言いながら最後までみんなで作って。もう何かちょっと汚れちゃったけどいいやとか言いながら、最初は気にしていたんですけど、中学生の子も。でも、だんだんもう絵の具だらけになっていいのができて、みんなで結構感動してということとかもあって。自然と小さい子の面倒を見てくれたりとか。

○市長

　そうか。基本的に子どもたちって環境をつくってあげれば、その中で見つけていくんですよね。分かりました。

○団体

　ええ。

○団体

　障害者の方とか高齢者の方と絡めたいなというのも、やっぱりその関わり方を知らないから、どうしても偏見の目で見てしまったりとか、そういったいじめにもつながってしまったりするのかなというのもあって。すごく難しいところではあると思うんですけれども、関わることを何度も何度も経験を積み重ねることで分かることもあるし。

　実際にうちの子どもも最初、日中支援の方とかが来て、何であの人あんな動きなのとか、ちょっとびくびく怖いなという思いを抱きながら見ていたんですけど、いつの間にか仲よくなっていたりとか、何日もやっぱり時間をかけてですけれども、そういった関わり方を経験することで人に優しくできたりとか、未来が変わってくるんじゃないかなという思いで活動しています。

○市長

　高齢者の人たちもひょっとすると、この辺が結構一つヒントなのかもしれない。やっぱり引き籠もっている高齢者の人たち非常に多いので、民生委員の人とか一生懸命、親身になってやってくれているんですけど、それでも何か家から出てこないという人が増えちゃったりとかしているのが。だから少しずつ、そういう経験が重なっていけばつながりを持ってくれるのかなって気はしますね。

○団体

　そうですね。私、介護の仕事もしているんですけれども、ちょっと認知もあったりとか、すごくいつも機嫌が悪い方と、たまたまうちの子どもを連れていって絶対怒られるかなと思ったけど、子どもと関わっている姿がすごくもう笑顔がすごくあふれていて、この人こんなに笑うんだというぐらい、子どものエネルギーっていろいろな人を変えることができるんだなというのもそのとき感じたんですね。

○市長

　分かりました。

○団体

　私も介護しているんですけど、やっぱり介護の人、独りお住まいが多くて、私も訪問で行っているんですけど、お子さんと疎遠だったり、お孫さんと疎遠だったりしてやっぱりちょっと寂しそうだなというところがあって、そうやって集まるところがあればいいなってやっぱり思います。

○市長

　そうですね。

○団体

　私たちが行けば外に出るけど、やっぱり１人だと怖くて出ないという人がいるので、子どもとかが迎えに来て、おばあちゃん遊ぼうなんて来たら、ちょっとは行きたくなりますよ。

○市長

　そうですよね。

○団体

　私、自分の地域、住宅街なので、結構やっぱり周りの方にもすごくお世話になっていて、御理解をいただけないと続けてこられないというので、最初はやっぱり反対されていた御近所の方がいらっしゃったんですね。子どもの声がうるさいとか、公園でこんな遊びしないでとか、緑地なのでここは公園じゃないからって最初言われて。緑地だから公園じゃないみたいに言われたんです。なんですけど、何度も挨拶に行って、こういう活動をしていくことで独り暮らしの高齢者の方にも見守りもできるし、高齢者の方と関わることで子どもも得るものもあるのでということを何度も御挨拶に伺わせていただいて理解をいただいて、今度は、今は応援をしてくれているという現状で、ありがたいなと思いながら。最初は結構やっぱり分からない。何物なのかも分からないから反対だったんですけど、今はそういう形で徐々に理解をしていただいています。

○市長

　そうですね。ぜひこれからもよろしくお願いします。

○団体

　よろしく。

○市長

　何かすっぽり収まっちゃった。

○団体

　小田さんから。参加者から。

○団体

　いつも遊びに行かせていただいていて、すごくありがたい場所だと思っています。私、息子がゼロ歳のときに、常々夜寝ないことがあって外遊びをさせたほうがいいよってアドバイスもらったんですけど、はいはいしているときから外遊びってどうすればいいのか分からなくて、それで取りあえずそういう遊び場があると聞いてプレーパークに行ったら、それで外遊びの仕方、こうやって遊ばせるんだなとか、自分１人ではやっぱりその辺に放しておけば勝手に遊ぶよって言ってくれた人もいて、実際、齋木さんからいただいたアドバイスもそれだったんですけど、公園に行って、その辺にはいはいの子をほっておいていいのかとか分からなかったんです。だけど、みんなでやっぱり遊んでいる場所で、あと見ててくださる方もいてという場所はすごく安心で、最初、外遊びスタートできたんです。

　今も定期的に遊びに行かせてもらっていて、そうすると成長もみんな皆さんに見守っていただいている感じもして、地域の中で子育てができているなというものを感じる場所がプレーパークです。なので、すごくありがたいと思っています。

○市長

　なるほど、分かりました。

――　了　――